

■「第4次福岡市子ども総合計画」に関する審議状況

1 総会における審議

〔審議内容〕

「第4次福岡市子ども総合計画」について諮問、内容について審議

〔開催日時〕

2月4日（火）午後2時～4時 … 別紙1

5月30日（金）午前10時～12時

8～9月（予定） ※ 計画案（素案の修正案）について審議

2 専門委員会における審議

目標1 子どもの権利を尊重する社会づくり

〔審議内容〕

子どもに関する相談体制の充実、児童虐待防止対策、社会的養護体制の充実、障がい児支援、子ども・若者の支援、子どもの貧困問題への対応、子どもの権利の啓発、子どもの社会参加

〔開催日時〕

5月30日（金）午後1時30分～3時30分

目標2 安心して生み育てられる環境づくり

〔審議内容〕

幼児教育・保育の充実、母と子の心と体の健康づくり、ひとり親家庭への支援、子育てで家庭への経済的な支援、仕事と子育てが両立できる環境づくり、子育てを支援する住まいづくり・まちづくり、子どもや子育て支援に関する情報提供

〔開催日時〕

第1回 3月26日（水）午前10時～12時 … 別紙2

第2回 7月4日（金）午後1時30分～3時30分

第3回 7月下旬～8月（予定）

目標3 地域における子育ての支援と健やかな成長を支える環境づくり

〔審議内容〕

子育て支援ネットワークの充実、健やかな成長を支える取組、子どもの遊びや学びの場づくり、子ども・若者の自己形成支援、子ども・若者の社会的自立に向けての取組、子ども・若者の安全を守る取組と非行防止

〔開催日時〕

4月25日（金）午後1時30分～3時30分 … 別紙3

◆福岡市こども・子育て審議会総会（平成 25 年度第 2 回）における意見要旨

【開催日時】平成 26 年 2 月 4 日（火）午後 2 時～ 4 時

【開催場所】福岡国際ホール 14 階イベントホール

【出席委員】25 名

計画全般

- 「福岡市がめざすそれぞれの姿」の「大人の姿」の中に「事業者」とあるが、企業については、ワーク・ライフ・バランスの部分に少し記載があるだけで、わざわざこのように取り上げるような項目にはなっていない。（幼稚園・保育園を運営している社会福祉法人なども「事業者」に含むのであれば）もう少し、「事業者」として想定している対象が分かるように書いた方がよい。
- ニーズ調査のアンケートについて、回答の「その他」の欄に、母親の思いが書かれていると思う。その内容が分かれば、具体的に検討できるのではないかと。「その他」の内容を示してほしい。
- 「子どもにやさしいまちづくり」とは、「子どもの権利条約」の自治体レベルでの実現である。そういう視点から、子どもに関する施策は、基本的に「子どもの権利条約」の理念をベースにすべきだと思う。子どもの権利は、福祉分野に限らず、あらゆる分野に明確な視点として位置づけられるべきものである。子どもの権利条約の理念を、今回の総合計画に、今回こそ明確に位置づけてもらいたい。
- 新制度の先取りということで、新制度の内容に関わるものが、この 4 月からの保育や幼児教育に取り入れられることが具体化されてきている。福岡市で新制度をどうするかについては、この審議会で意見を出せるものだと思認識している。審議会に説明も相談もない中で具体化を進めるのは手順が違うのではないかと。

目標 1 子どもの権利を尊重する社会づくり

- 計画の対象を若者まで拡大するのは、非常に大切である。成人すると、困っていることには変わりなくても、相談できる場所が少なくなる。児童相談所でも、発達障がいについての相談の比率が増えているが、成人後も支援が必要な人がかなりの数にのぼるのではないかと。地域の中で、複数のいろいろな立場の人が関わっていくことが非常に重要になる。例えば、ボランティア制度の導入なども視野に入れた議論ができないか。
- 発達障がいは、少年期や成人してからも、長いスパンでの相談体制や支援体制が必要である。未就学児に限らない取り組みを明確にしてもらいたい。
- 目標 1 の中で「発達障がいに対する支援」といった言葉（項目）を明記できないか。

目標 2 安心して生み育てられる環境づくり

- 「保育士等の人材確保」は非常に大きな問題であり、本当に保育士が足りない。市は保育士あっせんの支援センターを設け実績を上げているが、こうしたパイプラインを大きくできるような具体的な施策がないか。教育・保育の施策の拡充、施設の整備、量的拡充など、形だけ作っても、人材がしっかり供給されなければ意味のある中身にならないのではないかと。
- 国の必須項目に「一時預かり事業」とある。既存の保育園で行ってはいるが、量的にしっかりとっていくには難しいところがあり、先に待機児童の方に対応しなければならない状況もある。どのような手法で一時預かりを実施していくのか。
- 保育所については、非常に公的責任が重いと思っている。保育所を中心とした形でのいろいろな保育施策の拡充をぜひお願いしたい。
- ひとり親家庭が増え、親も働く中で、集団保育になじまない障がい児たち、療育を必要とする子どもの保育についての相談が非常に増えている。「保育の充実」の中で、ひとり親世帯の場合等も含め、療育を必要とする子どもの保育のこれからのあり方等も含めて検討してもらいたい。

目標 3 地域における子育ての支援と健やかな成長を支える環境づくり

- アンケートを見ると「留守家庭子ども会で今後充実してほしいこと」として「夏休みなど、学校休業日の開始時間を早めてほしい」が飛びぬけて高い（50.7%）。保護者の仕事の都合もあるが、学校に 8 時ごろ着き、時間をつぶしている子どもを目にする。普段と同じ時間に家を出て、ペースを崩さずに夏休みも留守家庭子ども会に行くのが、子どもにも親にもよい。開始時間を早めることが可能か検討いただければと思う。

◆目標2「安心して生み育てられる環境づくり」専門委員会（第1回）における意見要旨

【開催日時】平成26年3月26日（水）午前10時～12時

【開催場所】天神ビル11階11号会議室

【出席委員】10名

項 目	意見の要旨
1 幼児教育・保育の充実	
(1) 教育・保育の提供体制の確保	●子ども・子育て支援新制度に関し、民間保育園の基本的なスタンスを市民にも分かりやすく記載してほしい。例えば「民間保育園に関しては、児童福祉法第24条第1項に基づく保育の実施義務が市町村にある」などの表現を盛り込んでもらいたい。 ●認定こども園について、長期的なスタンスや方向性を示すことができないか。 ●保育コンシェルジュは好評だが、区に1人しかいない。保育コンシェルジュの持つ情報やノウハウを市民に提供できるよう、冊子にまとめてはどうか。
(2) 保育士等の人材確保	—
(3) 多様な保育サービスの充実	●主な制度・目標は書かれているが、総合計画としては「いざ困った時にどうするか」「安全をどう担保するか」が足りない印象がある。普段は保育園や認定子ども園で対応できるが、病気など通常時以外の対応をきちんと記載することが必要。 ●サービスの安全が保障されていなかったケース（ベビーシッターに関する事件）も発生している。NPOや企業などの団体が責任を持つ体制をつくっていく必要がある。 ●病児・病後児デイケアについて、 ・サービスはあっても、人数その他の関係で必要な時に受け入れてもらえないケースが発生している。女性が仕事をやめざるを得ない要因にもなりかねない状況であり、安心して働けるようにするために、もう少し整備が必要。 ・病児保育に手を挙げる小児科の医師が増えることが望まれる。（実施する病院数を増やすために）市で助成などを行ってはどうか。 ・預かり状況をHPでリアルタイムで流すなどするとよいのではないか。 ●保育園の中に看護師がいる保健室を確保し、熱が出た時などに保護者が迎えに来れるまで1～2時間は見てもらえるような体制ができるとよい。 ●ショートステイや一時預かり事業は、申し込んでも定員がいっぱいで入れない状況があると聞く。受け入れ箇所数や人数を増やしてもらいたい。 ●児童養護施設等は数が少なく、場所（立地）の問題もあり、ショートステイで子どもを預けたい母親にはハードルが高い。ファミリーサポート会員で対応できる人を増やすなど受け皿を広げることができないか。また、児童養護施設は、幼児でも男子と女子に分けられるので、きょうだい児の場合など、預けにくい。 ●ファミリーサポートセンターについて、子どもを預かる会員への支援体制が必要。（事故など）何かあった時が心配で会員になれないという人も多い。〈目標3関連〉
(4) 教育・保育の質の向上	—
(5) 教育・保育の連携推進	—
2 母と子の心と体の健康づくり	
(1) 健康づくりの推進	●「感染症予防のため、予防接種を推進します」と記述されているが、事故も発生しうるため、社会的防疫機能としての予防接種は難しい問題である。 ●児童虐待などの社会的な問題が増えているが、妊婦健診時に助産師や産婦人科医が母親への精神的なケアなどを行い、母と子の愛情形成を妊娠期から築くようにする必要があるのではないか。 ●子育てに悩む母親は多い。訪問する保健師を増やすなど相談体制の充実が必要。 ●「学校等や地域における健康づくり」について、表題と文章の整合が必要。

(2) 小児医療の充実	—
(3) 食育の推進	●アレルギー児が増え、症状も重症化しており、保育現場でも緊張感・危機感がある。アレルギー児への対応をしっかり記載する必要がある。また、保育所職員への研修を引き続きしっかり行うなど、市でも真剣に対応することが必要。
(4) 不妊等に悩む人への相談体制と支援	—
3 ひとり親家庭への支援	
4 子育て家庭への経済的な支援	
●子ども医療費の助成について、事業内容をもう少し付け加えるとよく分かるのではないかな。	
5 仕事と子育てが両立できる環境づくり	
(1) 子育てへの男女共同参画の促進	●男性が育児に参加するという意識は高くなっているが、父親の育児休業の取得率は非常に低い。企業や行政が育児休業の取得を促進していくことが必要。 ●精神論ではなく、「女性が働き続ける上で何が障害になっているか」をきちんと押さえる必要がある。男性の長時間労働と男女の役割意識の問題が大きい。後者については「男女の固定的な役割分担意識の解消度」との記載のみで具体的な分析が行われていない。具体的にどこまで取り組むか書き込むことが必要。
(2) 企業における仕事と生活の調和(ワークライフバランス)の推進	●子育て期間だけでも男性が育児に参加し、仕事もフレキシブルにできるよう、また、経済的にもマイナスにならないよう、企業の理解を得て取り組む必要がある。 ●商工会議所などとタイアップして取り組めば、より少し具体的な内容が出てくるのではないかな。協力いただいてはどうか。
(3) 社会全体での子育て支援	●『い〜な』ふくおか・子ども週間に関して、教育委員会などと協力し、授業参観のある日は親のどちらかが学校に行くようにしてはどうか。学校と保護者の関係が深まり、相談もしやすい体制ができるのではないかな。
6 子育てを支援する住まいづくり・まちづくり	—
7 子どもや子育て支援に関する情報提供	—
全般に関する意見等	
●「主な事業」に記載されている事業について、具体的にどのように実施するのか分かりづらい。 ●「推進します」「支援します」という表現が多い。7項目に1つずつでも何らかの数値目標が必要である。 ●全体に「市がすべての責任を負いましょう」という計画になっているが、問題・ニーズは個別にたくさんあり市だけで対応できるものではない。子育て支援業を行う企業やNPOが関わるが必要であり、それらとの連携をもっと取り入れてよいのではないかな。市が(民間のサービスに)ある程度関与することによって、責任体制の監視といった要素が入っていけば、かなり安心できるサービスができる。いざという時に預かってくれる人がいないのが今のまちの現状である。急な事態に対応するサービスも出てきており、市がそうした企業等としっかり連携することを方針として入れてもらいたい。 ●保育が必要な子供への議論が中心になっているが、家庭で子育てしている母親やその家庭に対する支援にもしっかりと目が行き届くような文言を入れるべきではないかな。 ●「妊娠・出産期からの切れ目のない支援」(47頁)とあるが、取り組みは思春期から行う必要がある。 ●さまざまな部署が計画の実施に携わると思うが、どのような組織で進めていくのかが見えない。組織図をつけるか、事業概要の横に担当部署の明記が必要。また、関係部署がしっかり連携して取り組んでももらいたい。 ●乳幼児健診時の母親へのアンケートで「子育てが楽しい」との回答が増えている。これを単なる親子関係の問題と見るのではなく、他の要素も含めて原因を分析し、施策の検討時に考慮していく必要がある。 ●日本小児科学会では「スマホを使った子育てをやめよう」とPRしている。こうした取り組みを福岡市が取り上げて、大々的に行うとよいのではないかな。〈目標3関連〉	

◆目標 3 「地域における子育ての支援と健やかな成長を支える環境づくり」専門委員会における意見要旨

【開催日時】平成26年 4 月25日（金）午後 1 時30分～ 3 時30分

【開催場所】天神ビル11階11号会議室

【出席委員】 9 名

項 目	意見の要旨
1 子育て支援ネットワークの充実	
(1)子育て支援のネットワークづくり	●子どもたちを健やかに育むためには、地域力、地域の子育て力を高めていくことが重要。子どもや保護者、地域の高齢者がお互いの顔を知り、気軽に挨拶できる環境を整えてほしい。 ●地域での保護者同士のコミュニケーションが不足している。保護者に、日ごろから互いに顔が見える生活が重要であることを認識してもらう必要がある。 ●子育てサークルは地域での親のネットワークづくりの第一歩であり、地域の教育力にもつながるなど重要である。 ●今の父親は、入学式・卒業式などの行事への出席も多く、昔より子育てに参加している。ただ（対象が）自分の子どもに留まっており、いかに周囲（地域）の子に意識を広げていくかが課題である。 ●高齢者（団塊の世代など）の多くが地域に貢献したいと考えており、子ども・子育て支援の大きなパワーになりうる。素案では「父親」と「高齢者」が併記されているが、忙しい父親に対し、高齢者は比較的余裕がある。高齢者が参画しやすい仕組みをつくることが重要である。 ●自校区では、自治協議会と学校、PTAが協議し、小学生は全員子ども会に加入している扱いにした。子どもの参加は増えたが、親の参加が少ないことが課題である。
(2)地域における人材の育成と大学、企業、NPO等との連携	●子育てサークルは、保育園・幼稚園や小学校の役員など、地域のリーダーが育つ場としても重要である。 ●自校区では「楽しいから」との理由で子ども会育成会の役員に立候補する人が多い。地域で子どもとかかわることの楽しさを感じるということが重要である。
2 健やかな成長を支える取組	
(1)豊かな心を育む取組の推進	—
(2)健やかな成長の支援	●子どもたちの間でリーダーシップを発揮する「ジュニアリーダー」は非常に重要。行政も現状を把握し、引き続き支援していく必要がある。
(3)家庭の子育て力の向上	●家庭が子育ての一番大事な基盤であり、教育力などの「子育て力」をしっかりとさせなければいけない。 ●男性の子育て参加を促進するため、市がモデルとなって、職員の「授業参観特別休暇」を設けてはどうか。父親の子どもへの関心が高まり、家庭の基盤づくりや父親の地域参加促進に役立つのではないかと。＜目標 2 関連事項＞ ●携帯・スマホは喫緊の課題である。特にLINEについては、「（深夜までかかっても）返信しないと翌日学校に行けない」など、苦しんでいる中高生が非常に多い。多くの学校でそのような状況がある。

3 子どもの遊びや学びの場づくり	
(1)乳幼児親子の遊びや交流の場づくり	●子どもプラザなどの子育て支援拠点を増やせないか。また、子どもプラザ同士の定期的な意見交換、市の担当者も交えた意見交換の場がほしい。 ●子育て交流サロンや子育てサークルへの支援が必要である。 ・子どもプラザも巻き込んだ支援を行ってはどうか。 ・子育てサークルでは、次のリーダー選びや資金不足が課題となっており、行政の支援が必要である。 ・大学と共同で子育てサークルを実施してはどうか。サークルと行政の1対1で考えるより、さまざまな資源（主体）が見える形にするとよい。 ●子どもプラザをもっと利用してもらうために、LINEや一斉メールを活用したPRを行ってはどうか。
(2)公民館や学校施設などを活用した遊びや学びの場づくり	●未就学児対象の活動の多くは公民館を中心に行われているが、参加者が少ないのが課題。公民館側も重要性は認識しており、地域に積極的に働きかけ、多くの親子に集まってもらえるよう取り組みたいと考えている。
(3)外遊びの場づくり	●乳幼児の外遊びを進めるための取り組みが必要である。
(4)子どもの視点での活動の場づくり	—
4 子ども・若者の自己形成支援	
(1)様々な体験機会の充実	—
5 子ども・若者の社会的自立に向けての取組	
(1)子ども・若者の主体性の醸成と職業観の育成	●障がいがある子どもや配慮が必要な子ども、外国文化の中で生きている子どももいる。多くの悩んだ子どもが高校を中退する現実があり、その多くは、引きこもりになるなど社会に戻ることができていない。また、部分的な発達の障がいがあれば、大学院を出ても就職できない状況もある。 ●今回の計画で、30歳までを対象としているのは、大変実情に合っている。
(2)大人としての自覚の醸成	
(3)就労支援の取組	
6 子ども・若者の安全を守る取組と非行防止	
(1)交通安全対策の推進と災害等への対応	—
(2)子どもの安全を守る取組の充実	●下校指導をしていた自治会長が、連れ去りにあいそうになった子どもを助けた例がある。子どもの安全のためには地域力を高めることが非常に重要である。
(3)非行防止	—
(4)有害環境等への対応	—
全般に関する意見	
●行政が、家庭の問題や、子どものスマホの問題等にどこまで介入してよいのかは、根本的な問題である。例えば、米子市のPTAが「不必要な携帯を持たせない」という宣言をしたように、子どもをめぐるさまざまな課題に対して、いろいろなセクターが関わりあって取り組んでいく方向かと思う。 ●障がいのある子どもたちや、発達障がいの傾向がある子どもたち、外国籍の子どもたち、就労の支援が重要なひきこもりの人々、あるいは保護者も含め、すべてで“福岡市”である。そういう視点を今後もしっかり持ち続けながら、議論を進めていきたい。	